令和６年４月
交　通　局

市バス・地下鉄事業のあらまし

（令和６年４月）

京都市交通局

目　次

１　事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（１）自動車運送事業（市バス）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）高速鉄道事業（地下鉄）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

２　直近の経営状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（１）１日当たりのお客様数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（２）令和５年度の決算見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

３　令和６年度予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

（１）予算編成の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

（２）予算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

（３）重要課題への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

（４）予算の重点項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

（５）市バス・地下鉄の財政状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

４　附帯事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

（１）駅ナカビジネス収入の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

（２）広告料収入の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

５　当面する重要課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

６　職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

７　機　構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

1　事業概要

（1）自動車運送事業（市バス）

ア　営業設備（令和６年４月１日現在）

（ア）路線

	令和６年度（A）	令和５年度（B）	比較（A－B）
営業路線キロ	322.03km	321.93km	0.1km
バス専用レーン	86.6km	86.6km	－
停留所間平均距離	410m	410m	－
運転系統数	74 系統	74 系統	－

（イ）バス停留所及び設備

	令和６年度（A）	令和５年度（B）	比較（A－B）
停留所数	714 か所	714 か所	－
停留所標識数	1,632 か所	1,632 か所	－
上　　屋	668 か所	666 か所	2 か所
ベ ン チ	910 か所	902 か所	8 か所
バス接近表示器	552 か所	552 か所	－
照　　明	1,186 か所	1,185 か所	1 か所
バスの駅	68 か所	68 か所	－

（ウ）車　両

		令和６年度（A）	令和５年度（B）	比　較（A－B）
車　両　数		810 両	801 両	9 両
うち低床車（バリアフリー対応）		810 両(100%)	801 両(100%)	9 両
	うちノンステップバス	781 両(96%)	772 両(96%)	9 両
	うちワンステップバス	29 両(4%)	29 両(4%)	－
うちアイドリングストップバス		810 両(100%)	801 両(100%)	9 両
うちハイブリッドバス		59 両(7%)	59 両(7%)	－
うちラッシュ型車両		451 両(56%)	423 両(52%)	28 両

注（ ）内は、車両数に占める割合を示しています。

（エ）事業所及び案内所等

○　営業所及び出張所

名　称	所在地	敷地面積（㎡）	所属車両数(両)	
				うち委託
西賀茂営業所	北区西賀茂山ノ森町	9,963.86	110	－
烏丸営業所	北区小山北上総町	(注) 15,251.40	88	－
錦林出張所（全部を管理の受委託）	左京区浄土寺真如町	5,058.34	45	45
九条営業所	南区東九条下殿田町	19,580.42	179	－
梅津営業所（一部を管理の受委託）	右京区西院笠目町	16,925.71	168	57
洛西営業所（全部を管理の受委託）	西京区大枝東新林町	14,115.81	106	106
横大路営業所（全部を管理の受委託）	伏見区横大路橋本	10,261.91	114	114
合　計	－	－	810	322

注　烏丸営業所の敷地面積は、バスターミナル部分を含みます。

○　車両工場

名　称	所在地	敷地
自動車整備工場	伏見区竹田西段川原町	地下鉄竹田車両基地に含みます。

○　市バス・地下鉄案内所

市バス・地下鉄の運行に係る案内（ダイヤ、運賃、系統、停留所位置等）やカード乗車券の発売等を行っています。

名　称	所在地	案内時間等
交通局	地下鉄太秦天神川駅地上（ＳＡＮＳＡ右京１階）	７時３０分～１９時３０分（年中無休）
京都駅前	ＪＲ京都駅中央口前バス総合案内所内	
コトチカ京都	地下鉄京都駅中央１改札口横	
北大路	北大路バスターミナル内（地下鉄北大路駅隣接）	
烏丸御池駅	地下鉄烏丸御池構内（改札外）	

○　市バス・地下鉄定期券発売所

<table>
<tr><th rowspan="2">発売所</th><th colspan="2">令和６年４月３０日まで</th><th colspan="2">令和６年５月１日から</th></tr>
<tr><th>営業日</th><th>営業時間</th><th>営業日</th><th>営業時間</th></tr>
<tr><td>北大路駅</td><td rowspan="5">月～土曜日
日・祝日</td><td rowspan="5">7：30～19：30
9：00～17：00</td><td rowspan="5">月～金曜日
土・日・祝日</td><td rowspan="5">7：30～19：30
9：00～17：00</td></tr>
<tr><td>四条駅</td></tr>
<tr><td>京都駅前</td></tr>
<tr><td>山科駅</td></tr>
<tr><td>三条京阪駅</td></tr>
<tr><td>竹田駅</td><td rowspan="2">月～土曜日
日・祝日</td><td rowspan="2">12：00～19：30
9：00～17：00</td><td rowspan="2">月~水・金~土曜日
(木・日・祝日は休み)</td><td rowspan="2">12：00～19：30</td></tr>
<tr><td>六地蔵駅</td></tr>
<tr><td>二条駅</td><td>月～土曜日
日・祝日</td><td>12：00～19：30
9：00～17：00</td><td colspan="2" rowspan="5">変更なし</td></tr>
<tr><td>梅津営業所</td><td rowspan="2">月末5日~月始5日</td><td rowspan="2">うち月～土曜日
12：00～19：30</td></tr>
<tr><td>洛西営業所</td></tr>
<tr><td>西賀茂営業所</td><td rowspan="2">月末2日~月始1日</td><td rowspan="2">うち日・祝日
9：00～17：00</td></tr>
<tr><td>横大路営業所</td></tr>
</table>

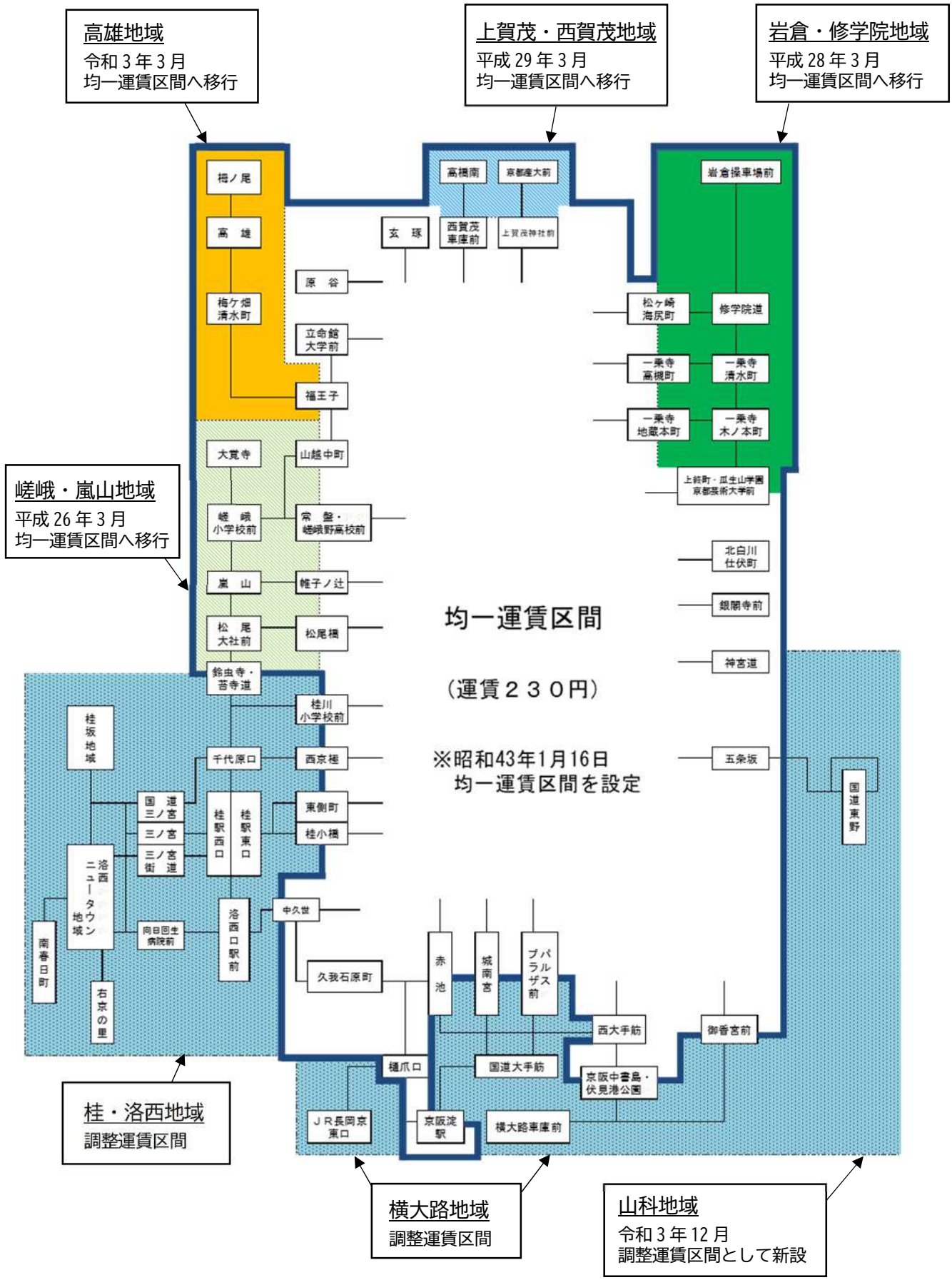
注１　年末年始（１２月３１日～１月３日）は全ての発売所が休み

注２　地下鉄のＩＣＯＣＡ定期券（通勤・継続）については、地下鉄全駅の自動券売機で購入可能です。

市バス・地下鉄案内所
（コトチカ京都）

イ　市バス運賃

・均一運賃区間…　　・調整運賃区間（均一区間外）
大人 230 円　小児 120 円　　大人 160～420 円　小児 80～210 円



（２）高速鉄道事業（地下鉄）

ア　営業設備（令和６年４月１日現在）

（ア）路　線

区　分	烏丸線	東西線
営業路線キロ	13.7 km	17.5 km
駅　　数	15 駅	17 駅
駅　　名	国際会館、松ヶ崎、北山、 北大路、鞍馬口、今出川、 丸太町、烏丸御池、四条、五条、 京都、九条、十条、くいな橋、 竹田	六地蔵、石田、醍醐、小野、 椥辻、東野、山科、御陵、蹴上、 東山、三条京阪、京都市役所前、 烏丸御池、二条城前、二条、 西大路御池、太秦天神川
駅間平均距離	0.98 km	1.09 km
運転回数	国際会館~竹田（平日）161 往復	六地蔵 ～ 御陵（平日）130 往復 御陵～京都市役所前（平日）188 往復 京都市役所前~太秦天神川（平日）178 往復
路線構造	地下構造(竹田付近は一部地上)	地下構造
軌　　間	1.435m	1.435m
集電方式	架空線方式、直流 1,500 ボルト	架空線方式、直流 1,500 ボルト
建　設　費	3,053 億円	5,461 億円

（イ）車　両

■　烏丸線：２０編成（１編成６両）、１２０両

※供用開始（昭和５６年５月）から４０年以上経過する９編成を、
令和３年度から令和７年度にかけて順次更新

※現在、烏丸線新型車両（２０系）は５編成が運行中

■　東西線：１７編成（１編成６両）、１０２両

烏丸線新型車両（20 系）

【令和 4 年 10 月に「グッドデザイン賞」、
令和 5 年 5 月に鉄道友の会「ローレル賞」をW受賞！】

（主な特徴）

・外観・内装デザインに京都の伝統産業素材・技法を活用

・車体構造の強化等により安全性が向上

・省エネ化による走行用消費電力削減（現行車両比約 30%減）

・床面とホームの段差を低減し、車椅子スペースを充実するなど、バリアフリー化を推進

・車両全体について廃棄車両から一部の装置を再利用するなど、できる限り費用を抑える工夫を実施

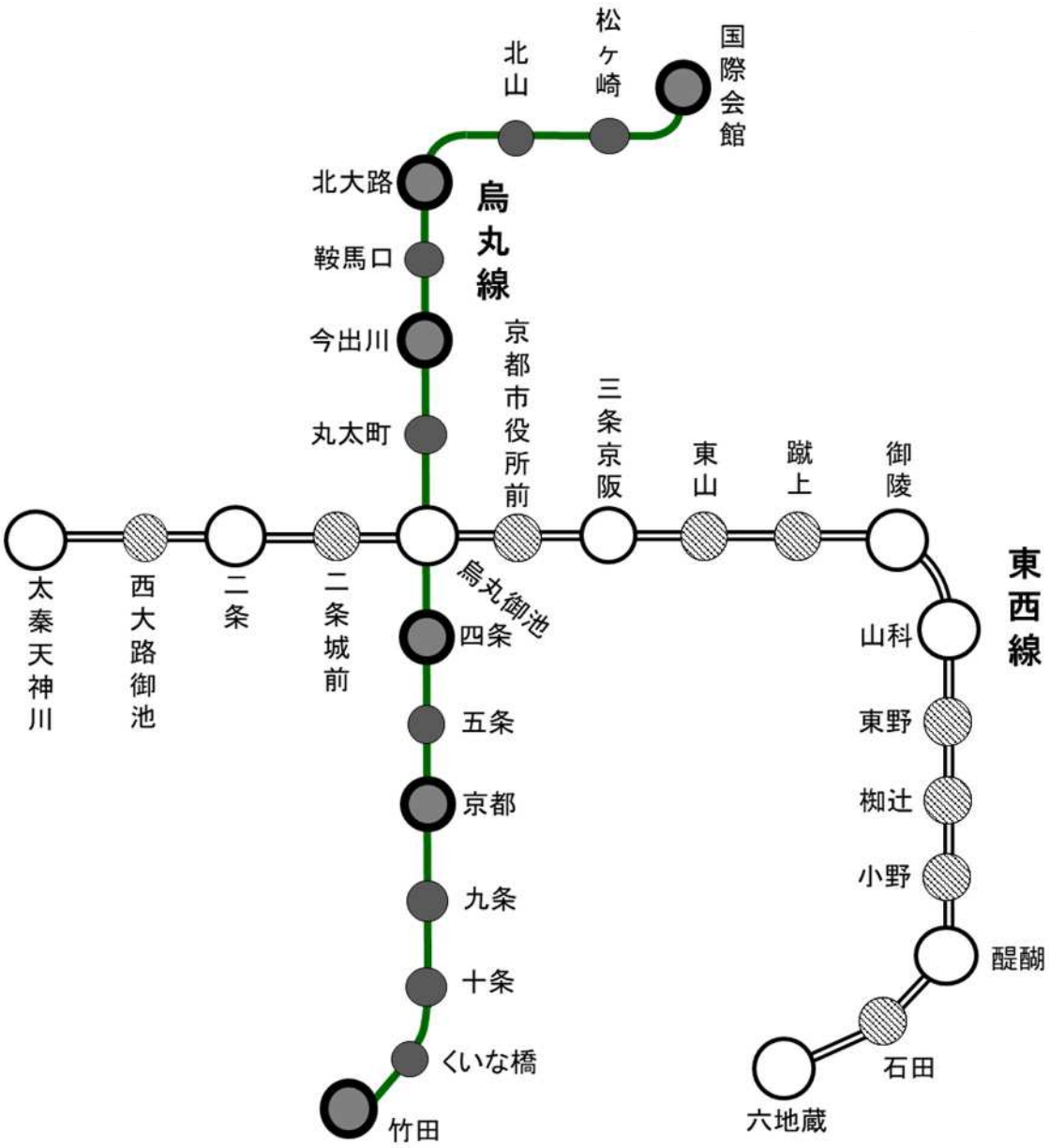
（ウ）事業所及び施設

○　運輸事務所及び駅

名　　称	所在地
烏丸線運輸事務所	
乗務区（竹田）	伏見区竹田西段川原町
駅務区（九条）	南区東九条南烏丸町
国際会館駅	左京区岩倉大鷺町
松ヶ崎駅	左京区松ヶ崎六ノ坪
北山駅	北区上賀茂岩ヶ垣内町
北大路駅	北区小山北上総町
鞍馬口駅	上京区上御霊中町
今出川駅	上京区岡松町
丸太町駅	中京区大倉町
烏丸御池駅	中京区虎屋町
四条駅	下京区二帖半敷町
五条駅	下京区大坂町
京都駅	下京区東塩小路町
九条駅	南区東九条南烏丸町
十条駅	南区東九条南石田町
くいな橋駅	伏見区竹田中島町
竹田駅	伏見区竹田桶ノ井町

名　　称	所在地
東西線運輸事務所	
乗務区（醍醐）	伏見区醍醐高畑町
駅務区（京都市役所前）	中京区下丸屋町
六地蔵駅	宇治市六地蔵奈良町
石田駅	伏見区石田森東町
醍醐駅	伏見区醍醐高畑町
小野駅	山科区小野西浦
椥辻駅	山科区椥辻草海道町
東野駅	山科区東野片下り町
山科駅	山科区安朱南屋敷町
御陵駅	山科区御陵原西町
蹴上駅	東山区東小物座町
東山駅	東山区大井手町
三条京阪駅	東山区大橋町
京都市役所前駅	中京区下丸屋町
烏丸御池駅（再掲）	中京区虎屋町
二条城前駅	中京区二条城町
二条駅	中京区西ノ京星池町
西大路御池駅	中京区西ノ京東中合町
太秦天神川駅	右京区太秦下刑部町

○　地下鉄各駅の委託状況



【地下鉄駅数】　３１駅（直営駅：１４駅、委託駅：１７駅）

〔烏丸線〕	１４駅	〔東西線〕	１７駅
●… 烏丸線直営駅	６駅	○… 東西線直営駅	８駅
●… 烏丸線委託駅	８駅	▨… 東西線委託駅	９駅

注　烏丸御池駅は東西線に含みます。

○　車両基地

名　称	所在地	敷　地
竹田車両基地	伏見区竹田西段川原町	67,670.88 ㎡
醍醐車庫	伏見区醍醐高畑町	地下構造式

○　変 電 所

名　称	所在地
国際会館前変電所	左京区岩倉大鷺町
北大路変電所	北区小山北上総町
姉小路変電所	中京区姉小路通東洞院西入車屋町
勧進橋変電所	南区上鳥羽勧進橋町
醍醐変電所	伏見区醍醐川久保町
山科変電所	山科区安朱中小路町
東山変電所	東山区分木町
御池変電所	中京区姉小路通東洞院西入車屋町
天神川変電所	右京区太秦下刑部町

竹田車両基地

醍醐車庫

（エ）駅設備

○烏丸線

駅名［駅ナンバリング表示］／設備名	国際会館 [K01]	松ヶ崎 [K02]	北山 [K03]	北大路 [K04]	鞍馬口 [K05]	今出川 [K06]	丸太町 [K07]	烏丸御池 [K08]	四条 [K09]	五条 [K10]	京都 [K11]	九条 [K12]	十条 [K13]	くいな橋 [K14]	竹田 [K15]	計
エレベータ（基）	3	2	2	2	2	2	1	※	3	2	3	2	2	2	4	32
エスカレータ(基)	3	3	1	5	1	4	2	※	6	3	4	1	1	2	5	41
改札口（か所）	1	1	1	2	1	2	2	※	3	2	4	1	1	1	2	24
自動券売機（台）	3	2	3	5	4	5	5	※	8	5	14	2	2	2	4	64
自動改集札機(台)	5	4	5	9	4	9	8	※	13	6	21	4	4	4	10	106
精算機（台）	2	1	1	3	1	3	2	※	4	2	7	1	1	1	2	31

注１　烏丸御池駅分は、東西線で一括計上しています。

注２　烏丸御池駅、四条駅、京都駅、北大路駅の４駅に可動式ホーム柵を設置しています。

○東西線

駅名［駅ナンバリング表示］／設備名	六地蔵 [T01]	石田 [T02]	醍醐 [T03]	小野 [T04]	椥辻 [T05]	東野 [T06]	山科 [T07]	御陵 [T08]	蹴上 [T09]	東山 [T10]	三条京阪 [T11]	京都市役所前 [T12]	烏丸御池 [T13]	二条城前 [T14]	二条 [T15]	西大路御池 [T16]	太秦天神川 [T17]	計
エレベータ(基)	5	5	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	3	2	2	5	4	45
エスカレータ(基)	5	3	3	1	3	4	2	6	7	2	6	4	10	2	3	4	4	69
改札口(か所)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	19
自動券売機(台)	3	2	4	2	3	2	4	2	3	3	4	3	7	2	3	2	3	52
自動改集札機(台)	5	4	5	4	4	4	6	4	4	4	7	4	9	4	5	4	4	81
精算機（台）	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	3	1	1	1	1	22

注　東西線は全駅にホームドアを設置しています。

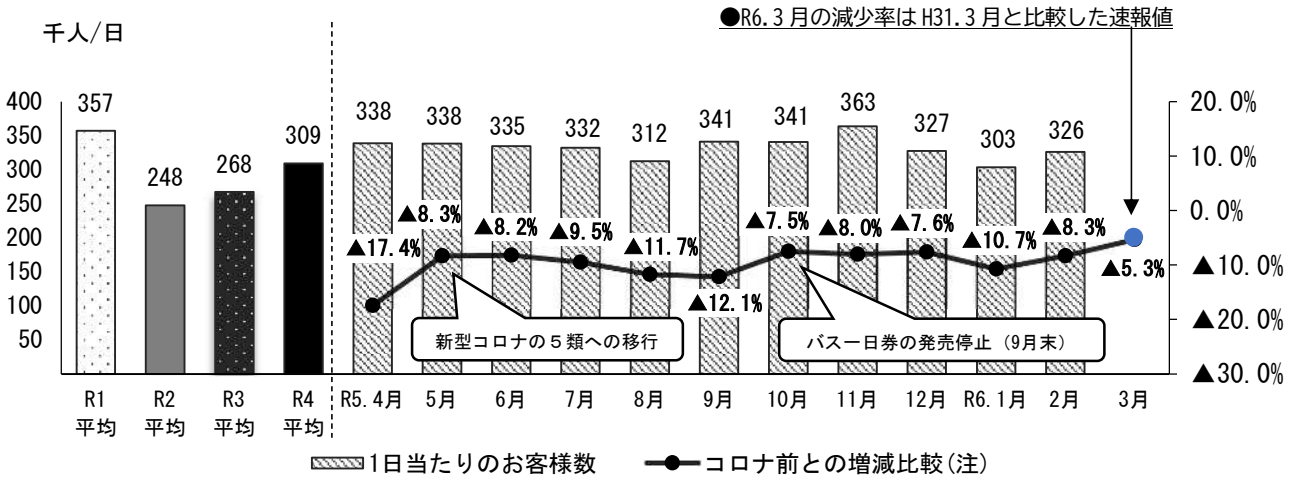
イ　地下鉄運賃　　（単位：円）

区　分	１区（3 ㌔ まで）	２区（3 ㌔を超え 7 ㌔まで）	３区（7 ㌔を超え 11 ㌔まで）	４区（11 ㌔を超え 15 ㌔まで）	５区（15 ㌔を超える区間）
大　人	220	260	290	330	360
小　人	110	130	150	170	180

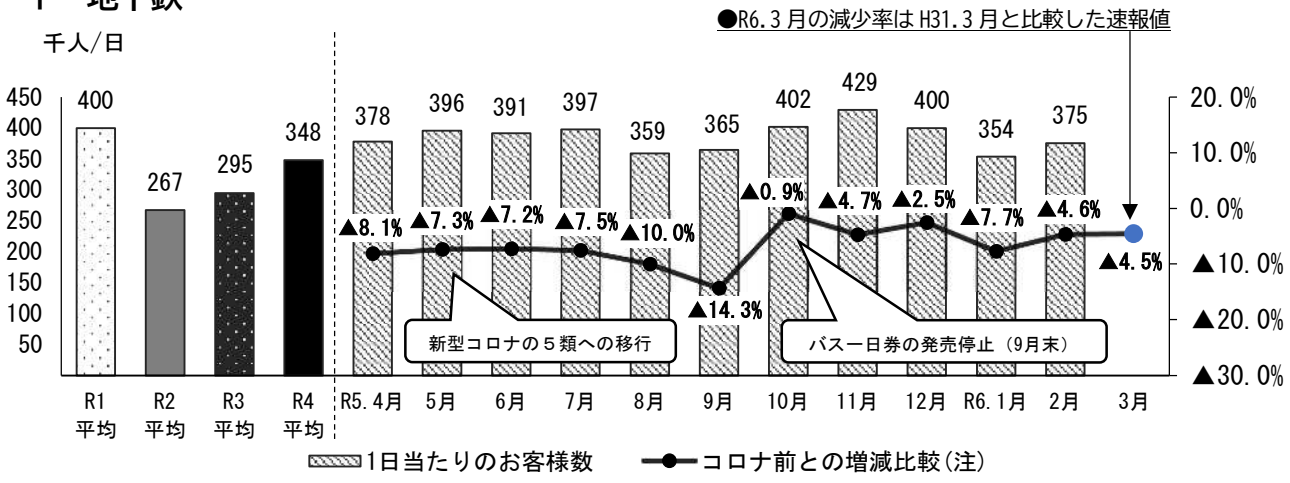
２　直近の経営状況

（１）１日当たりのお客様数の推移（令和５年度）

ア　市バス



イ　地下鉄



注　令和元年度比較（ただし、２月、３月はコロナの影響があったため平成３０年度との比較）

（２）令和５年度の決算見込み

・　お客様の御利用は新型コロナの５類への移行や円安の進行もあり、一定の回復傾向が見られ、年間を通じたお客様数はコロナ禍前の令和元年度との比較では、市バスで▲7.5%、地下鉄で▲5.1%となる見込み

・　令和５年度の予算を緊縮予算とし、経費の執行抑制をはじめ、お客様数の回復や平均乗車単価の他都市並みへの改善などの効果もあり、令和元年度以来４年ぶりとなる市バスで６億円、地下鉄で８億円の経常黒字を計上できる見込み

・　市バスは、国の臨時交付金による財政支援（約 2.9 億円）や燃料油価格激変緩和措置による軽油価格の抑制効果（約 3.6 億円）が無ければ実質的には▲0.5 億円の赤字であり依然として厳しい経営状況

・　地下鉄は、お客様の御利用状況の回復やバスと組み合わせた移動の促進等による営業収益の増加をはじめ、国の臨時交付金による財政支援や電気料金の落ち着き等もあり、８億円の黒字を確保できる見通し

3　令和６年度予算

（１）予算編成の基本方針

●重要課題への対応

経営健全化の推進　**～持続可能な市バス・地下鉄を目指して～**

市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、利用促進、収入増加、経費削減に取り組み、引き続き経営健全化を推進します。

市バスの混雑対策　**～市民生活と観光の調和に向けて～**

観光利用の更なる回復を見据え、市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し市民生活と観光の調和を目指します。

●予算の重点項目

重点①　**安全・安心の取組**

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

重点②　**利便性・快適性の向上**

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

重点③　**明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組**

市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、利用促進、収入増加、経費削減の実践をはじめ、経営状況の見える化を進めるなど、より一層の経営健全化策を推進します。

重点④　**担い手不足への対応や働き方改革の実践等**

公営交通を支える運転士・整備士をはじめとする担い手の確保・育成や、働き方改革の実践等による「真のワーク・ライフ・バランス」の実現に向けて取り組みます。

重点⑤　**社会課題解決や「都市の成長戦略」への貢献**

子どもまんなか社会の実現や事業活動における環境への配慮など、持続可能な社会の実現を目指すＳＤＧｓの達成に向けた取組を展開するとともに、誰もが安心して住み、学び、働くことができ、誰もが訪れ、楽しむことができる「都市の成長戦略」に貢献します。

（２）予算の概要

（令和６年度の見通し）

（１）　令和６年度もコロナ禍前の状況までお客様数の回復を見込むことが難しいなか、輸送の安全確保のための車両・設備の老朽化対策や燃料費・人件費等の高騰の影響が大きく経常損益は市バスで▲６億円、地下鉄で▲３億円の赤字を見込む

（２）　交通事業者として最大の責務である安全運行の徹底を最優先に、宿泊税を活用し、地下鉄の既存車両への車内防犯カメラの設置などの安全・安心の取組をはじめ、市バス車両の増車（９両）やバス停上屋の新設の再開、地下鉄の新型車両への更新など利便性・快適性の向上に積極的に取り組む

（３）　一人でも多くのお客様に御利用いただくため全庁一丸となった利用促進活動や、ＩＣカードを活用した施策の充実など、市民の皆さまにより身近に便利に御利用いただける取組を強力に推進

（４）　厳しい経営状況や担い手確保の課題がある中でも、持続可能な公営交通として社会課題解決や「都市の成長戦略」に貢献する予算として編成

（５）　アフターコロナにおけるお客様の動向などこの間の経営状況の変化を踏まえ「京都市交通局 市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】」（令和４年３月策定）の見直しに着手

ア　予算の主要数値

【市バス】

	５年度予算 A	６年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	801両	810両	9両
走行キロ数〔１日平均〕	81.5千km	82.0千km	0.5千km
経常損益	▲20億円	▲6億円	14億円
▲累積欠損金	▲55億円	▲22億円	33億円
▲累積資金不足 資金剰余	▲31億円	8億円	39億円
年度末企業債残高	110億円	92億円	▲18億円

【地下鉄】

	５年度予算 A	６年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	222両 〔37編成〕	222両 〔37編成〕	－
走行キロ数〔１日平均〕	55.4千km	55.4千km	－
経常損益	▲32億円	▲3億円	29億円
▲累積欠損金	▲3,166億円	▲3,120億円	46億円
▲累積資金不足	▲477億円	▲477億円	0億円
年度末企業債残高	3,312億円	3,137億円	▲175億円

イ　お客様の御利用状況

【市バス】

（単位：千人/日）

	元年度 A	2年度	3年度	4年度	5年度		6年度 予算 C	対前年 増減率		（参考） 元年度比 増減率
					予算 B	見込		増減 C-B＝D	D/B	(C-A)/A
市バス	357	248	268	309	307	330	331	24	7.8%	▲7.4%
うち定期	96	72	78	87	88	92	94	6	6.8%	▲2.2%
うち通勤	72	63	62	68	68	71	72	4	5.3%	0.0%
うち通学（大学）	17	5	9	14	14	16	16	2	17.4%	▲5.0%
うち定期外	187	99	114	149	147	173	181	34	23.1%	▲3.2%

【地下鉄】

（単位：千人/日）

	元年度 A	2年度	3年度	4年度	5年度		6年度 予算 C	対前年 増減率		（参考） 元年度比 増減率
					予算 B	見込		増減 C-B＝D	D/B	(C-A)/A
地下鉄	400	267	295	348	351	380	385	34	9.7%	▲3.7%
うち定期	168	124	139	154	158	164	165	7	4.4%	▲1.7%
うち通勤	109	96	95	102	103	108	109	6	5.5%	0.0%
うち通学（大学）	40	15	27	34	35	38	38	4	11.4%	▲5.0%
うち定期外	208	119	132	171	173	196	203	30	17.3%	▲2.5%

（３）重要課題への対応

ア　経営健全化の推進　～持続可能な市バス・地下鉄を目指して～

令和６年度もコロナ禍前の状況までお客様数の回復を見込むことが難しい状況に加え、市バス・地下鉄の運行に必要な担い手の確保に向けた人件費の上昇や軽油・電気料金など燃料調達価格をはじめとする物価高騰により、引き続き厳しい経営状況が続くことが想定されます。

こうした中でも市バス・地下鉄の持続可能な運営を目指し「利用促進・収入増加」「経費削減」「経営状況の見える化」「国・府への要望」など引き続き徹底した経営健全化策に取り組んでいきます。

※詳細は重点③「明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組」（18～19 ページ）を参照

イ　市バスの混雑対策　～市民生活と観光の調和に向けて～

観光利用の本格的な回復を見据え、市民利用と観光利用が混在することにより、市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を次の２つの方針に基づいて積極的に展開します。

（ア）　市バス輸送力の再配分・増強等

令和６年６月実施予定の市バス新ダイヤにおいて、御利用状況に応じた輸送力の再配分と増車等により、通勤や通学、買い物などの市民利用を守りつつ、観光利用にもしっかりと対応するなど市民生活と観光の調和を目指した路線・ダイヤを編成

① 国の制度改正を踏まえた**「観光特急バス」**の新設（一般バスと別運賃の路線を設定し、市民利用と観光利用を棲み分け）等観光系統の再編
【宿泊税】

② コロナ禍後の御利用状況に応じた輸送力の再配分と増車等（９両増車 320,210 千円）【宿泊税】

③ 京都駅前バスターミナルや主要観光地周辺のバス停における整列・誘導を行う案内活動の充実（91,736 千円）【宿泊税】

④ 市バスの運行情報の更なるオープンデータ化

将来的なオープンデータ化に向け、混雑情報や走行位置等（動的情報）を提供するシステムの構築（令和６～７年度計 614,350 千円）

※国土交通省が定める標準フォーマット（ＧＴＦＳ－ＲＴ）形式で令和 10 年度にオープンデータ化することを目指す。

（イ）　地下鉄をはじめとした鉄道を生かした移動経路の分散【宿泊税】

輸送力に比較的余裕のある地下鉄をはじめとした鉄道を組み合わせた移動経路の分散に向けた取組を引き続き実施

① 観光シーズンにおける京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替（5,221 千円）「東山三条」「金閣寺道」など

② 国内空港や宿泊施設等における「地下鉄・バス１日券」のＰＲ（13,575 千円）

国内空港（関西国際空港、羽田空港、成田空港）の旅行者向け案内施設や市内宿泊施設において、各種媒体（デジタルサイネージ、ポスター枠、リーフレットラック、ホテル内等に設置されている観光情報誌など）を活用し「地下鉄・バス１日券」をＰＲ

③ 語学に堪能な「京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”」による交通・観光案内活動（45,000 千円）

地下鉄をはじめとする鉄道と市バスを上手に組み合わせた観光ルートの積極的な案内など移動経路の分散化を推進

（参考）市バスの混雑緩和など観光課題対策の取組について

交通局がこれまで実施してきた混雑対策の取組について御紹介します。

・主要バスターミナルやバス停に設置したモニター用カメラを活用した機動的な臨時バスの運行
・京都駅前バスのりばにおけるバスの待ち時間の表示
・市バスの行先表示器への「楽洛 東山ライン」等の愛称の付加
・春と秋の繁忙期におけるバスから地下鉄への無料振替の実施
・「地下鉄・バス１日券」のＪＲ東海と連携した新幹線の京都駅構内での販売など地下鉄をはじめとした鉄道への利用誘導
・「バス１日券」の発売停止（令和５年９月末発売停止、令和６年３月末利用停止）
・京都駅前バスのりばの大型モニター等を活用した手ぶら観光のＰＲ等
・大型手荷物の持ち込みを御遠慮いただく日本語、英語、中国語の３か国語表示のステッカーの市バス乗車扉付近への掲出（令和５年 11 月～）

市バス乗車扉付近に掲出している啓発ステッカー

（観光課題対策に向けた京都市全体の取組例）

・京都観光快適度マップによるエリアごとの観光快適度やライブカメラによる混雑状況の発信
・公共交通機関の乗り方等についてのマナー啓発
・パークアンドライドの利用促進や観光バスの路上駐留対策による渋滞緩和
・手荷物の一時預かりサービス等に係る情報発信など手ぶら観光のＰＲ

（４）予算の重点項目

重点①　安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

（１） 安全輸送の徹底

【市バス】

① 安全運転訓練車や外部機関を活用した事故防止研修の実施（5,567千円）

② 安全対策が必要と思われるバス停に係る対策の検討（1,000千円）

③ バス停における乗降口のバリアフリー改修（3,000千円）【宿泊税】

【地下鉄】

④ 烏丸線新型車両（20系）の導入（2,368,360千円）
令和６年度２編成（累計７編成）

⑤ 車内防犯カメラの設置（24,596千円）【宿泊税】
新型車両に加え既存車両についても年次計画を定め順次設置
・烏丸線…令和６年度１編成（累計１編成）※新型車両は２編成（累計７編成）
・東西線…令和６年度１編成（累計１編成）

【両事業共通】

⑥ 警察等と連携した痴漢対策など犯罪防止に向けた取組の実施

（２） 災害対策の強化

【市バス】

① 災害時における無線通信設備の停電対策を強化（4,950千円）

【地下鉄】

② 駅出入口等における浸水対策の強化
・止水板…東山駅・東山変電所の２か所（15,257千円）
（国への要望活動により国庫補助対象となった変電所設備へは初の浸水対策を実施）
・簡易型止水板…８駅15か所の出入口（6,728千円）
（従来の水のうに代わり設置等が容易な簡易型止水板を新たに導入
烏丸線…松ヶ崎１か所、北山１か所、鞍馬口２か所、
今出川４か所、四条１か所
東西線…烏丸御池４か所、二条１か所、太秦天神川１か所）

←【簡易型止水板】
イメージ

③ 烏丸線各駅のホームにおける安全対策（13,331 千円）
　軌道階への転落防止対策として、ホーム階ベンチを線路に対して垂直となる向きへの付け替えを令和５年度に続いて実施（松ヶ崎、鞍馬口、九条、十条、くいな橋）※これにより全ての可動式ホーム柵未設置駅での付け替えが完了

施工後のベンチ

【両事業共通】

④ 警察・消防など関係機関と連携した合同災害訓練の実施

重点②　利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

【市バス】

① バス停上屋の新設再開やベンチの設置等バス待ち環境向上の取組（20,632 千円）【宿泊税】

② 運賃箱の更新や「つり銭方式」への変更（令和６年 12 月予定）等（1,334,797 千円）【宿泊税】

③ 新ダイヤに合わせた分かりやすさ向上に向けた案内表示の修正（11,981 千円）【宿泊税】

④ 市バスの運行情報の更なるオープンデータ化　※再掲
　将来的なオープンデータ化に向け、混雑情報や走行位置等（動的情報）を提供するシステムの構築（令和６～７年度計 614,350 千円）
※国土交通省が定める標準フォーマット（ＧＴＦＳ－ＲＴ）形式で令和 10 年度にオープンデータ化することを目指す。

【地下鉄】【宿泊税】

⑤ 多言語翻訳機の追加配備
　特に使用機会の多い５駅（今出川、烏丸御池、四条、五条、京都）に追加配備（９台 346 千円）

【両事業共通】

⑥ ＩＣカードによるポイントサービス（もえぽっ）のモバイルＩＣＯＣＡへの対応（令和５～６年度計 49,500 千円）

⑦ 洛西地域のまちづくりと連携したＩＣ定期券の共通利用化に向けたシステム改修等（44,998 千円）※令和７年４月実施予定
・「桂フリー」定期券の発売
・定期券発売所の移設（市バス洛西営業所内からＪＲ桂川駅前）

重点③　明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

厳しい経営状況にある市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、利用促進、収入増加、経費削減に取り組み、より一層の経営健全化を推進します。

（１） 利用促進・収入増加策

【両事業共通】

① 一人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進活動の展開
- ・定期券の利用促進に向けた大学・経済団体等に対する営業活動の実施
- ・「京都市バス・地下鉄を守るための利用促進本部会議」による全庁体制での利用促進の取組
- ・「チーム『電車バスに乗るっ』」をはじめとする民間事業者等との連携による利用促進の取組

② ＩＣカードによるポイントサービス（もえポっ）のモバイル
ＩＣＯＣＡへの対応　※再掲

③ ワゴン販売や自動販売機の増設等の小規模スペースを有効活用した駅ナカビジネス増収策の実施

④ 広告料収入をはじめとしたあらゆる増収策の実施
- ・空き枠となっている地下鉄駅の電照広告の移設
- ・市バスや地下鉄関連の廃品やオリジナルグッズの販売促進
- ・まぢピンチキャラクターのＬＩＮＥスタンプの販売
- ・ふるさと納税制度による寄付や交通局の返礼品での資金調達

（２）経費削減策　（令和６年度削減効果額　市バス約 1.1 億円、地下鉄約 1.0 億円）

【市バス】

① 操車場の運行管理体制の効率化やバス車両の整備体制の見直し等

② リース方式でのバス車両の調達による企業債償還負担の軽減

【地下鉄】

③ 改集札機のＩＣ専用機導入等による保守管理費用等の見直し

④ 電気設備更新等における仕様見直し

⑤ 烏丸線新型車両導入に伴う電力使用量の削減

⑥ 設備更新による電力使用量の削減
- ・エスカレーター（北大路）、エレベーター（松ヶ崎、国際会館、鞍馬口）の更新　※国際会館、鞍馬口は R6～7 に実施

⑦ 駅舎（醍醐、東野、山科、御陵）等のＬＥＤ化による電力使用量の削減
※御陵は R6～7 に実施

【両事業共通】

⑧ 定期券発売所の営業日・営業時間見直し

（３） 経営状況の見える化

交通局ホームページやＳＮＳによる情報発信など、様々な媒体を通じて市民やお客様に交通局の経営状況等を正しくお伝えします。

【令和５年度における取組事例】

・交通局ホームページ等におけるまぢピンチキャラクターによる経営状況の発信等
・京都駅前バスのりば大型モニターを活用した交通局ニュースの配信
・市バス車内路線図（運転席後方）を活用した営業係数の周知

まぢピンチキャラクター

・Ｘ（旧 Twitter）や Instagram など交通局公式アカウントの活用　等

（４） 国の支援制度の活用や国・府への要望活動の実施等

アフターコロナにおけるお客様の御利用の回復を見込むことが難しい状況やこの間の原油や物価高騰に対する支援など両事業の経営健全化に向けた支援について国や府に対し要望します。

なお、令和６年度の当初予算においては、エネルギー価格等の物価高騰の影響を受け、厳しい経営状況にある地域公共交通事業者に対する影響緩和を目的に配分された「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を財源として、一般会計から令和６年度上半期における影響額相当として市バスで 8,800 万円、地下鉄で１億 4,500 万円の繰入金を計上しています。

（参考）臨時交付金を財源とした繰入額

（単位：千円）

	運行奨励金		感染症対策等		燃料高騰支援		合計	
	市バス	地下鉄	市バス	地下鉄	市バス	地下鉄	市バス	地下鉄
令和２年度	431,600	699,600	112,490	57,227			544,090	756,827
令和３年度	429,000	700,000					429,000	700,000
令和４年度			167,987	208,539	218,000	398,000	385,987	606,539
令和５年度			130,000	61,000	176,000	312,000	306,000	373,000
令和６年度					88,000	145,000	88,000	145,000
合計	860,600	1,399,600	410,477	326,766	482,000	855,000	1,753,077	2,581,366

※令和２～４年度は決算額、令和５～６年度予算額（令和５年12月補正を含む）　　総合計　4,334,443千円

重点④　担い手不足への対応や働き方改革の実践等

公営交通を支える運転士・整備士等の担い手の確保・育成や、働き方改革の実践等による「真のワーク・ライフ・バランス」の実現に向けて取り組みます。

【両事業共通】

① 担い手確保に向けた取組の実施・強化
- ・就職や転職支援イベントへの出展等（3,328 千円）
- ・国の“働きやすい職場環境認証制度”の認証取得（160 千円）
- ・「大型二種免許未取得者」を対象とした免許取得費用の継続支援
- ・運転士等の働きやすい環境づくりや労働条件の改善
- ・女性職員の活躍機会拡大や職場環境向上に向けた施設改修の実施

② 市バス運転士の安全意識の高揚やモチベーションアップに向けた「運転技能接遇コンテスト」の開催（390 千円）

③ 資格取得支援制度（京都・観光文化検定等）によるスキルアップの奨励（300 千円）

重点⑤　社会課題解決や「都市の成長戦略」への貢献

子どもまんなか社会の実現や事業活動における環境への配慮など、持続可能な社会の実現を目指すＳＤＧｓの達成に向けた取組を展開するとともに、誰もが安心して住み、学び、働くことができ、誰もが訪れ、楽しむことができる「都市の成長戦略」に貢献します。

【市バス】

① 令和７年度における電気バスの運行開始に向けた事業着手（令和６～７年度計 178,920 千円）

② 洛西“ＳＡＩＫＯ”プロジェクトの推進
　鉄道駅～洛西バスターミナル間の最短ルートの新設や洛西ニュータウン内の回遊性を高めるバス路線網のブラッシュアップ等

【地下鉄】

③ 烏丸線新型車両の導入による電力使用量の削減　※再掲

④ 設備更新（令和６～７年度計 605,708 千円）による電力使用量の削減　※再掲
- ・エスカレーター（自動運転タイプ）の更新（北大路）
- ・エレベーター（松ヶ崎、国際会館、鞍馬口）の更新
  ※国際会館、鞍馬口は R6～7 に実施

⑤ 駅舎（醍醐、東野、山科、御陵）等のＬＥＤ化（令和６～７年度計 977,038 千円）による電力使用量の削減※御陵は R6～7 に実施 ※再掲

⑥ 地下鉄駅トイレにおける生理用品の無料提供サービス導入

⑦ 地下鉄駅構内（東山）への授乳スペースの継続（922 千円）

⑧ 温水洗浄便座のバリアフリートイレへの計画的設置（1,290 千円）
令和６年度２駅（四条２か所、京都１か所）

⑨ エレベーター内への鏡の追加設置（853 千円）
　車椅子使用者が床付近の状況を確認できるよう鏡を追加設置

【両事業共通】

⑩ 文化と経済の好循環の創出に向けた利用促進の取組

子育て世代の移住や定住を実現する施策や「大学のまち京都」「学生のまち京都」として更なる発展を目指し、学校や他局等と連携した取組を推進

⑪ 心のバリアフリーの推進

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が、交通事業者向けに実施している所定の研修課程を修了した者に認定する「交通サポートマネージャー」の養成（1,020 千円）

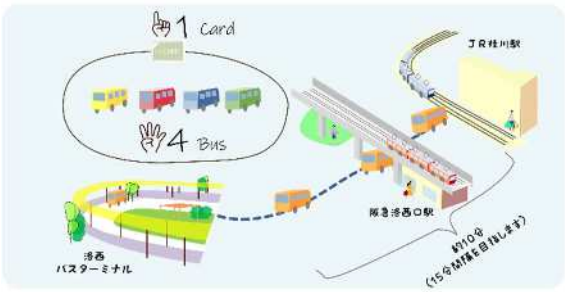
⑫ ＳＤＧｓ達成への貢献に係る情報発信

様々な媒体を活用した市バス・地下鉄の事業活動を通じたＳＤＧｓ達成への貢献に係る情報発信

広報物等での SDGs 啓発ロゴ

（参考）洛西“ＳＡＩＫＯ”（さあ、いこう）プロジェクトの取組

～「交通のバージョンアップ」に向けて～



バスをもっと乗りやすく！

４社局のバスが高頻度で運行する洛西地域。
その強みをいかし、タウンセンターを核として、
運行の効率化を図りながら利便性を更に高めます！

・鉄道駅と洛西バスターミナルとを結ぶ
　直行バス路線を新設※途中の各停留所にも停車します。
・洛西ＮＴ内の回遊性も向上。
・民営バス敬老乗車証が洛西地域全域で利用可能に。
・ヤサカバスのＩＣカード導入により、どの事業者のバスも乗りやすく！
・市バスＩＣ定期券で民営バスも利用可能に。
・バス路線の再編に合わせて洛西バスターミナルもリニューアル！

【出典】洛西“ＳＡＩＫＯ”プロジェクトみんなで進める！実行策（令和５年１１月本市策定）

（５）市バス・地下鉄の財政状況

【市バス】

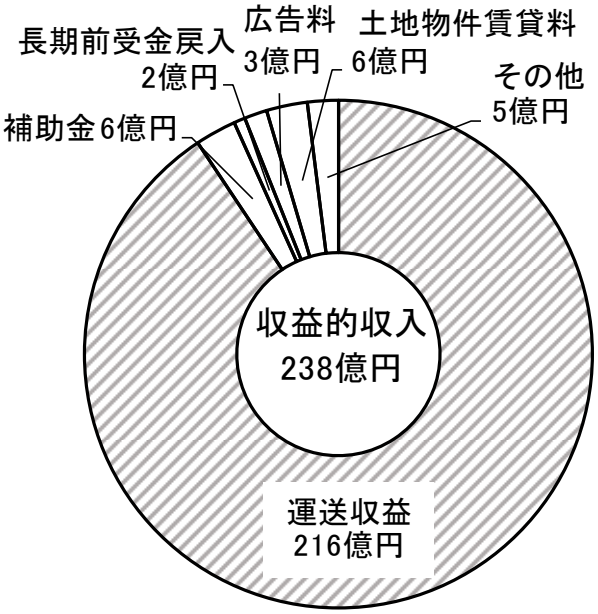
（税込額）

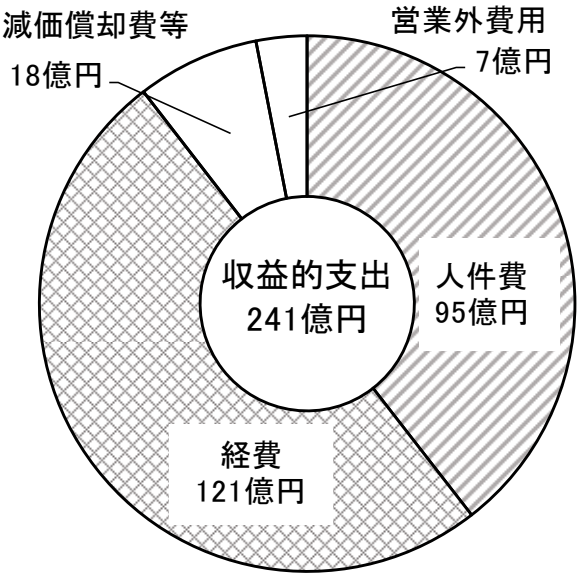
区　分		R6年度予算(A)		R5年度予算(B)		差引増▲減(A－B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営業収益	225	95	202	89	23	06
	うち運送収益	215	76	192	87	22	89
	営業外収益	12	04	9	78	2	26
	うち一般会計補助金	6	22	6	97	▲	75
	収入計	**237**	**99**	**212**	**67**	**25**	**32**
	営業費用	234	03	225	75	8	28
	うち人件費	95	33	88	00	7	33
	うち経費(燃料費・修繕費等)	120	82	119	30	1	52
	うち減価償却費等	17	88	18	45	▲	57
	営業外費用	7	42	4	94	2	48
	支出計	**241**	**45**	**230**	**69**	**10**	**76**
	経常損益	**▲ 5**	**53**	**▲ 20**	**01**	**14**	**48**
純損益		▲ 5	53	▲ 20	01	14	48
▲累積欠損金		**▲ 21**	**63**	**▲ 54**	**53**	**32**	**90**
資本的収支	収入	23	71	22	93		78
	うち企業債	23	12	22	01	1	11
	うち補助金		11		9		2
	支出	38	41	37	58		83
	うち建設改良費	23	25	22	49		76
	うち企業債償還金	14	66	14	59		7
	差引	▲ 14	70	▲ 14	65	▲	5
▲累積資金不足 資金剰余		8	38	▲ 30	58	38	96
年度末企業債残高		92	08	109	77	▲ 17	69

※経常損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

（収入・支出の内訳）

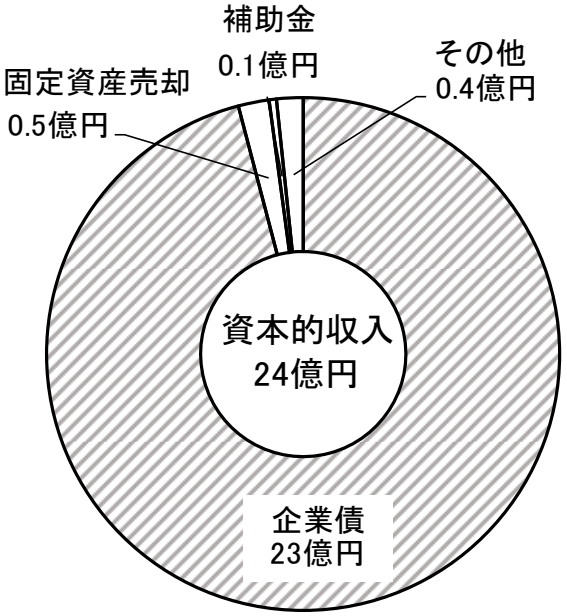
【収益的収支】

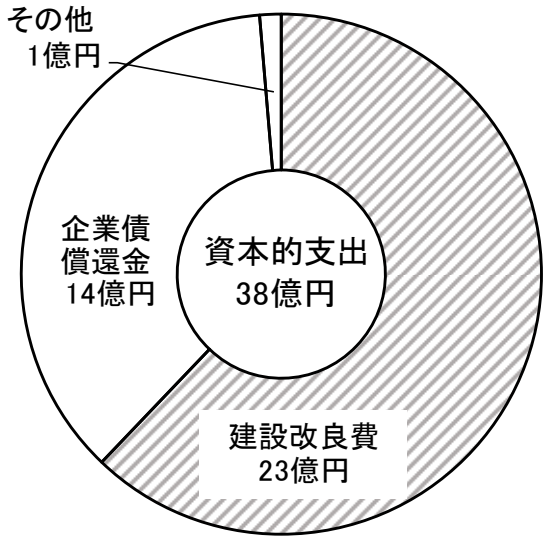




【補助金内訳(収益)】	
国補助	－
府補助	0.1億円
市補助	6.0億円

【資本的収支】





【補助金内訳(資本)】	
国補助	－
府補助	－
市補助	0.1億円

【地下鉄】

（税込額）

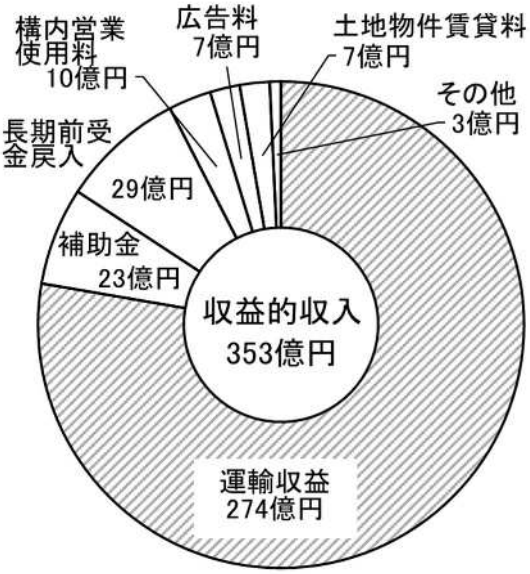
区分		R6年度予算（A）		R5年度予算（B）		差引増△減（A－B）	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営業収益	300	24	272	06	28	18
	うち運輸収益	274	23	246	64	27	59
	営業外収益	52	81	56	68	▲ 3	87
	うち一般会計繰入金	23	15	26	66	▲ 3	51
	収入計	**353**	**05**	**328**	**74**	**24**	**31**
	営業費用	307	33	311	88	▲ 4	55
	うち人件費	66	17	59	65	6	52
	うち経費（動力費・修繕費等）	95	20	105	64	▲ 10	44
	うち減価償却費等	145	96	146	59	▲	63
	営業外費用	42	69	41	40	1	29
	支出計	**350**	**02**	**353**	**28**	**▲ 3**	**26**
	経常損益	**▲ 3**	**36**	**▲ 31**	**58**	**28**	**22**
	現金収支（償却前損益）	**110**	**05**	**82**	**16**	**27**	**89**
▲累積欠損金		**▲3,120**	**03**	**▲3,166**	**49**	**46**	**46**
資本的収支	収入	187	43	149	51	37	92
	うち企業債	163	94	122	68	41	26
	うち補助金	8	91	10	98	▲ 2	07
	うち出資金	14	06	15	50	▲ 1	44
	支出	363	46	281	70	81	76
	うち建設改良費	70	85	77	59	▲ 6	74
	うち企業債償還金	291	61	203	11	88	50
	差引	▲ 176	03	▲ 132	19	▲ 43	84
▲累積資金不足		▲ 477	22	▲ 476	69	▲	53
年度末企業債残高		3,137	41	3,312	00	▲ 174	59

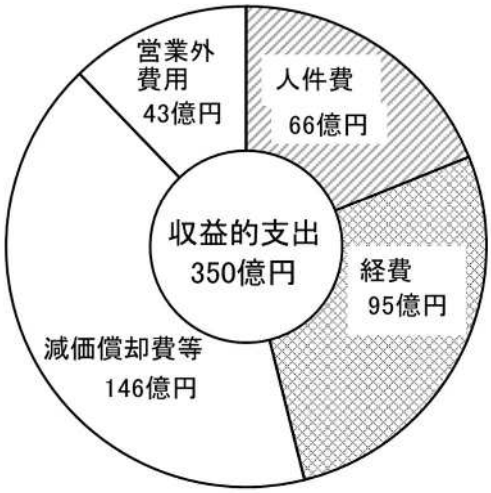
※経常損益、現金収支、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

※R5年度予算同様、R6年度予算では、財政健全化法における資金不足額は生じない。

（収入・支出の内訳）

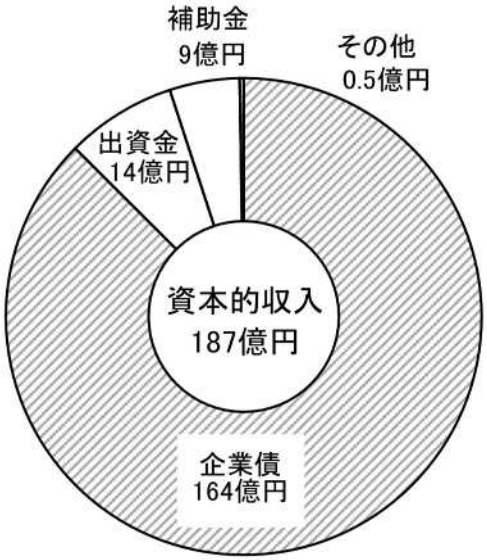
【収益的収支】

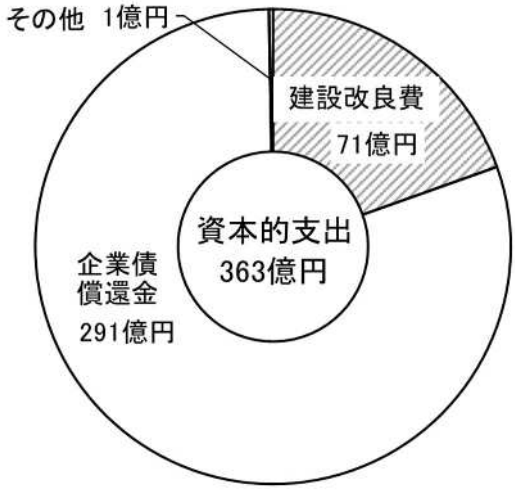




【補助金内訳（収益）】	
国補助	―
府補助	0.2億円
市補助	23.1億円

【資本的収支】





【補助金内訳（資本）】	
国補助	0.1億円
府補助	0.3億円
市補助	8.5億円

４　附帯事業

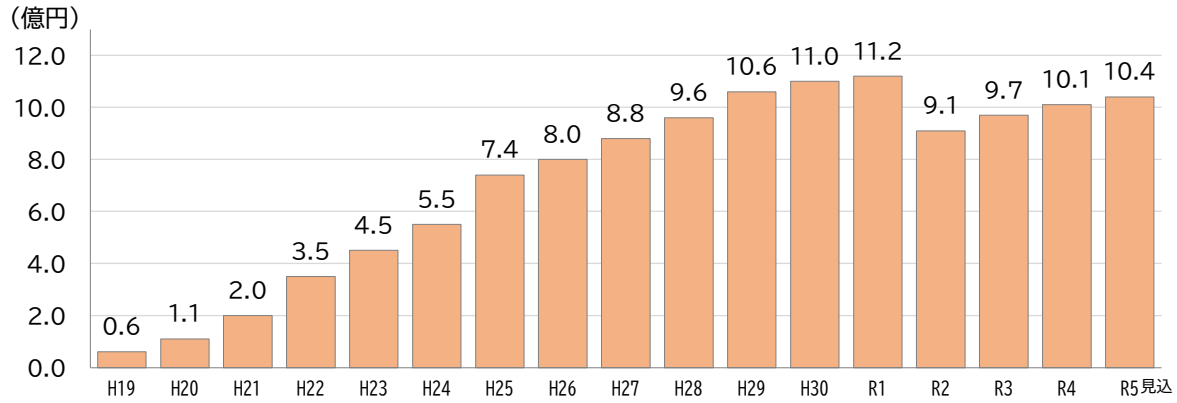
（１）駅ナカビジネス収入の推移

駅ナカビジネスにおいては、店舗・ＡＴＭ撤退等による減収があったものの、お客様数の回復や販売促進等により売上も増加基調にあったことや自動販売機の増設等による増収により、前年度比＋３千万円増加の約１０．４億円となる見込みです。しかしながら、コロナ禍前の令和元年度比較では▲７．２%となっており、依然として厳しい状況が続いています。

・地下鉄駅構内への「コトチカ」の展開

⇒四条（H22)、烏丸御池（H23 開業、H27 増床)、京都（H24 開業、H28 増床)、三条京阪（H25)、山科・丸太町（H26)、今出川（H27)、北大路（H29）など現在、簡易店舗を合わせて１２駅に４７店舗を展開(R6.4 月末現在)

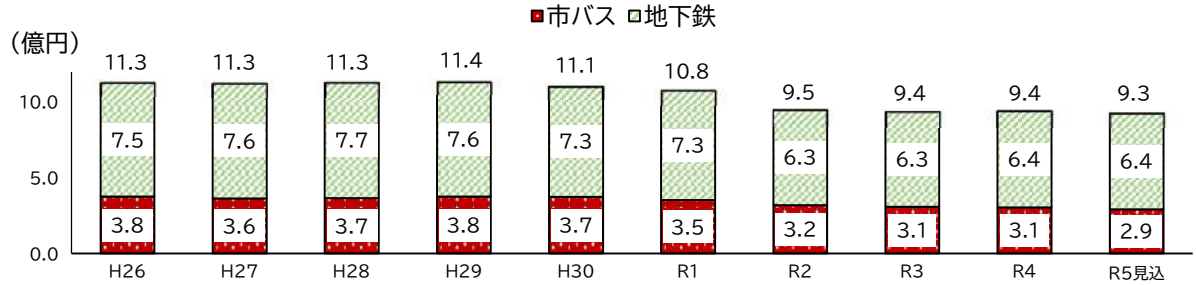
・その他、自動販売機、コインロッカー、ＡＴＭ等の利便施設を設置



（２）広告料収入の推移

コロナ禍前は、市バスのラッピングや地下鉄の駅・車内広告の販売促進、デジタルサイネージの導入などにより、広告料収入全体で１０億円を超える収入がありましたが、令和２年度以降は新型コロナの影響により大幅に減少しています。

令和５年度の広告料収入は、前年度からやや減少して、９．３億円となる見込みで、コロナ禍前の令和元年度比較では約▲１４%となっており、依然として厳しい状況が続いています。



※ 百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

5　当面する重要課題

（１）「市バス混雑対策プロジェクトチーム」による積極的な混雑対策の展開

令和６年４月１日付で設置された、観光政策監をリーダーとする局横断的な「市民生活と観光の調和推進プロジェクトチーム」の一員として、観光課題対策等に取り組むとともに、交通局独自に「市バス混雑対策プロジェクトチーム」を設置し、令和６年度予算でお示しした２つの方針である「①市バス輸送力の再配分・増強等」、「②地下鉄をはじめとした鉄道を生かした移動経路の分散」に基づき、積極的な取組を展開します。

（２）市バス・地下鉄運賃の市民優先価格の実現に向けた検討

観光都市であることのメリットを市民の皆様に還元するため、全国初のパイロットプロジェクトとして、市バス・地下鉄の市民優先価格の実現を目指し、法制度上可能な手法も含め、国土交通省としっかりと協議を行い、その実現に向けて全力で取り組んでまいります。

（３）全庁組織「市バス・地下鉄を守るための利用促進本部」の再構築

市バス・地下鉄事業の経営改善のためには、何よりも増客の取組が必要不可欠であり、アフターコロナにおける経営状況を踏まえ、増客の取組を強力に進めてまいります。その際、若手職員の意見を取り入れるなど、全庁組織の再構築を行い、一部の黒字系統が、赤字系統を支えている状況を踏まえ、「観光地分散化の観点を踏まえた周辺部のバス路線の利用促進」を重点に、全庁を挙げて積極的な市バス・地下鉄の増客の取組を展開します。

（４）「ｍｅｅｔｕｓ 山科-醍醐」プロジェクトとの連携

山科・醍醐地域の魅力と可能性を最大限活かし、移住・定住の促進や賑わい・利便性の向上など、活性化に向けた取組を全庁一丸となって推進するため、交通局においては、民間事業者や庁内各局と連携し、地下鉄東西線駅における賑わい創出に資する取組を検討・実施します。

6　職員数（令和６年４月１日現在）

（人）

区分	企画総務部	自動車部	高速鉄道部	合計
公営企業管理者	1			1
局　長　級	1			1
部　長　級	3　(2)	3	2	8　(2)
課　長　級	9　(2)	15　(1)	11	35　(3)
係　長　級	29　(4)	41　(2)	44　(1)	114　(7)
事務・技術職員等	94　(33)	157　(10)	345　(18)	596　(61)
運転士・車掌	27　(6)	869　(24)	192　(18)	1,088　(48)
合計	164　(47)	1,085　(37)	594　(37)	1,843　(121)

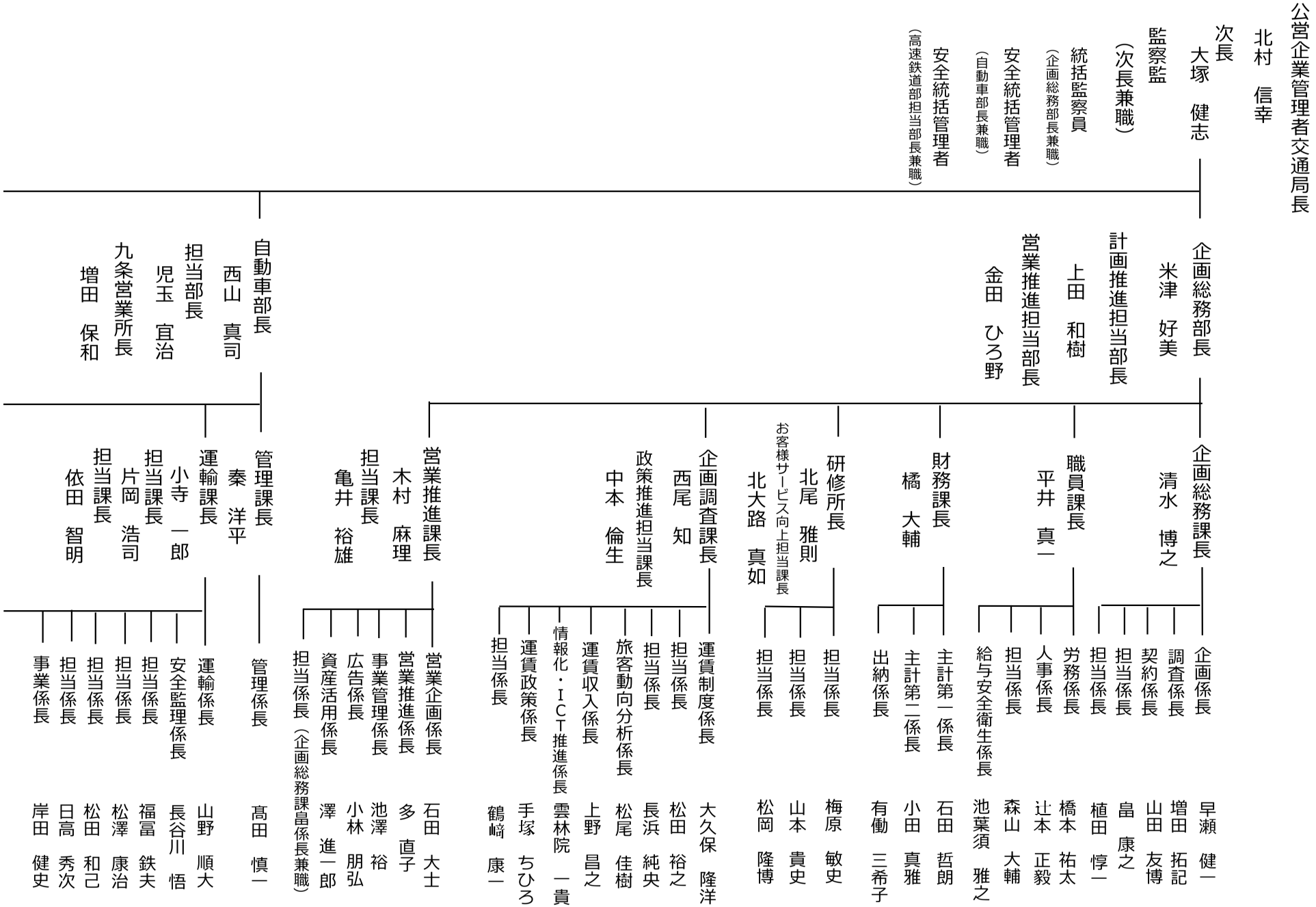
注１　職員数は常勤職員及び会計年度任用職員の人数です。

注２　括弧内は内数で女性職員の人数です。

注３　「公営企業管理者」及び「局長級」は企画総務部の職員数として「合計」欄に計上しています。

注４　企画総務部の職員数には市バス運転士研修生等を含みます。

7　機構　（令和6年4月1日現在）



高速鉄道部長
塩見　康裕
担当部長
秋丸　隆之
管理課長
横井　洋幸
管理係長　平井　聖子
安全運行管理官
阿曽　英明
運転係長　友田　博保
運転指令区長　中嶋　一哉
運輸課長
菱田　真一郎
運輸係長　高橋　裕幸
接客向上係長　上羽　正展
担当係長　辻井　啓典
鳥丸線運輸事務所長
中山　晋一
お客様サービス推進員
（鳥丸線運輸事務所長兼職）
乗務区長　山本　淳也
駅務区長　篠原　卓弥
担当係長　伊藤　文隆
担当係長　小篠　潤也
担当係長　平岡　英機
担当係長　水上　裕貴
担当係長　中村　悟帝
担当係長　速見　順也
東西線運輸事務所長
平岡　昭三
お客様サービス推進員
（東西線運輸事務所長兼職）
乗務区長　谷崎　良隆
駅務区長　山本　貞徳
担当係長　福井　茂彦
担当係長　大西　英樹
担当係長　棚橋　雄二
担当係長　阿賀川　徹
技術監理課長
宅野　雅博
担当課長
穴水　宏和
監理係長　（担当課長事務取扱）
土木係長　山田　亮介
担当係長　松村　秀一
建築係長　紺谷　信之介
担当係長　松浦　健一
機械設備係長　中野　倫幸
担当係長　山田　敏道
竹田保線区長　山田　泰正
醍醐保線区長　大野　滋久
高速車両課長
佐々木　英人
車両係長　春木　邦秀
車両担当係長　岡田　浩一
車両新造係長　林　保文
担当係長　藤田　明
車両工場長
松田　誠二
竹田検車区長　石橋　祐司
担当係長　中川　貴雅
醍醐検車区長　三上　朋彦
担当係長　小池　信一郎
電気課長
池田　茂生
担当課長
幡山　正
電力係長　平川　幸司
信号保安係長　西山　訓央
担当係長　古川　健史
情報通信係長　山本　祐督
電力区長　（担当課長事務取扱）
担当係長　井上　貴志
姉小路電気区長　飯田　剛
醍醐電気区長　後　光俊

路線計画係長 船越 靖男
担当係長 藤井 教路
担当係長 杉森 直樹
担当係長 長谷川 章子
担当係長 伊勢 拓矢
技術課長
朝田 政宏
バス待ち環境担当課長
今西 勉
車両係長 西村 文孝
担当係長 冬木 哲也
停留所管理係長 松本 盛二
担当係長 亀石 直也
バス待ち環境係長 福井 弘美
自動車整備工場長
山田 篤
技術係長 池田 吉輝
整備係長 長島 義弘
西賀茂営業所長
國生 善宏
副所長
奥田 剛
お客様サービス推進員
（西賀茂営業所副所長兼職）
庶務係長 宮村 義隆
運転係長 駒井 秀光
担当係長 大嶋 正輝
担当係長 浦野 利文
整備係長 甘中 規之
鳥丸営業所長
八木 浩一
副所長
田邉 勝治
お客様サービス推進員
（鳥丸営業所副所長兼職）
庶務係長 飯田 尚一
運転係長 梅原 正儀
担当係長 浦野 雄二
担当係長 南村 勝則
九条営業所長
（部長級）
副所長
前川 泰史
則永 吉廣
お客様サービス推進員
（九条営業所副所長兼職）
庶務係長 伴野 敏之
運転係長 中村 勝利
担当係長 藤原 伸也
担当係長 和田 勝幸
担当係長 尾形 彰
担当係長 高木 康博
担当係長 樹山 政吉
整備係長 久保田 雅喜
梅津営業所長
北岡 一彦
副所長
田中 真理子
お客様サービス推進員
（梅津営業所副所長兼職）
庶務係長 室 威夫
運転係長 淵上 丈次
担当係長 網 裕一
担当係長 藤木 徹也

(参考)　令和６年４月１日付け組織改正について

コロナ禍前の状況までお客様数の回復を見込むことが難しいなか、市バス・地下鉄の持続可能な運営を目指し、より一層の増収増客に取り組むとともに、市民生活と観光の調和を目指して「市バスの輸送力の再配分・増強」と「地下鉄をはじめとする鉄道を生かした移動経路の分散」の２つの視点による市バスの混雑への対策を積極的に展開します。

また、お客様数の回復状況をはじめ、人件費の上昇や燃料調達価格などの物価高騰など、令和４年３月の「市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】」策定以降の経営環境の変化を踏まえ、令和６年度中に同ビジョンを新たに見直すため、以下のとおり組織改正を行いました。

１　市バス混雑対策プロジェクトチームの設置

全庁体制で取り組む「市民生活と観光の調和推進プロジェクトチーム」の一員として観光課題対策等に取り組むとともに、交通局においても、「市バス混雑対策プロジェクトチーム」を設置し、喫緊の課題である市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、市民生活と観光の調和を目指します。

２　市民優先価格の実現に向けた体制整備

観光都市であることのメリットを市民の皆様に還元するため、全国初のパイロットプロジェクトである、市バス・地下鉄運賃の市民優先価格の実現に向けて、企画調査課に「政策推進担当課長」、「運賃政策係長」を新設しました。

３　経営ビジョン【改訂版】の見直しに向けた体制整備

アフターコロナにおけるお客様の動向など、この間の経営状況の変化を踏まえ、令和４年３月に策定した「京都市交通局 市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】」の見直しを行うため、企画調査課に担当係長を新設しました。

（併任）
行財政局防災危機管理室担当部長　企画総務部長　米津　好美
都市計画局歩くまち京都推進室担当部長　企画総務部長　米津　好美
文化市民局市民スポーツ振興室担当部長　自動車部長　西山　真司
同　高速鉄道部長　塩見　康裕
同　自動車部運輸課長　小寺　一郎
同　高速鉄道部運輸課長　菱田　真一郎
担当課長